

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「一人はみんなの為に、みんなは一人の為に」を掲げており、お互いがお互いを思いやり、利用者の家族から生活歴や経験等を取り入れ臨機応変に本人の気持ちを尊重した介護を提供させて頂いている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者・家族・職員すべての人達が目にする場所に運営理念を掲げ、認知症高齢者の介護をさせて頂く中で、スタッフの中にもストレス等があるがそこはお互いに話をし合い認知症に対する理解をもう一度行い理念に沿ったサービスが提供できるよう日々努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者の中には理解しづらい方もいるが、利用者が安心して苑での生活が行なえるよう特別なことはしていないが家族と上手くコミュニケーションを図りながら協力して支援している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣には小学校や併設したケアハウスもあり、その周辺の住民も含めた行事など行なっており、以前に比べると来客者も増え、気軽に話しかけてくれる方もおり、交流会や行事に参加できるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設しているケアハウスもあり、ケアハウスからの来客や合同での行事、近隣の小学校では交流会を取り入れたり、文化祭で作品を出品したりと地域との係わりに努めている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価で評価された内容は悪い部分だけでなく良い所に対してもそれを維持・向上出来るようその日その日でスタッフ達と意見交換し改善が出来るように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	2ヶ月に1回を基本に会議を行なうよう定められているが、確実に出来ていないときもあり。会議の際は市町村や家族、近隣の住民等の参加者もいるが報告は出来ても意見交換(話し合い)という形にまで至らないというのが現状である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は同じ市町村住民である代表者やスタッフとの交流もあり堅苦しくない環境ではある為、会議以外でも不明な点や共に取り組まなくてはならない事柄に対し行き来ができ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	制度について熟知出来ていないので研修や参考書を取り入れ理解出来るように行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		○	虐待は無いが、理解がなかなか得られない認知症高齢者に対し、行動を制止してしまう言動がスタッフ間に時折見られる。資料等を活用し今一度再認識して行なう必要があると思う。日頃の業務内で気付いた点はその都度注意や話を合っているが勉強会等を行なっていきたい。

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常日頃から、来苑する家族とは利用者の状況報告を行っており、お互いに相談しやすい関係作りに努めている。状態変化の多い利用者が問題等起こしつつある時専門家の病院受診が必要と思われる時は家族に説明をし理解と納得をしていただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	性格的なものもあるが、利用者は自分の意見や不満や気持ちをスタッフに伝えたり、不満等のみならず他の利用者に対する状況等を教えてくれたりしており、介護を提供する際に反映させることが出来る。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族は定期的に来苑されその都度報告等をさせていただいている。また、電話等で随時必要に応じ報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部・家族からの苦情が出た際は代表者に報告し、即ミーティングを開き問題改善に取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は併設しているケアハウスの施設長でもあり、常時近くにいるので職員の意見等は管理者が聞き入れ代表者に報告しミーティングには代表者も参加していただいている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤帯3人配置。状況によっては管理者が協力をし業務に入り業務に支障が出ないよう、利用者や家族のニーズに応えられるようスタッフ同士が協力し合い調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は極力控えているが、利用者に対する影響(環境の変化により不安感を与える等)を少なくするため、離職の際に引き継ぎを充分に行っている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢・性別には対象から排除する事はなく、最低でもヘルパー2級の資格を取得している者を条件にしている。採用の際は、代表者と管理者で行なっている。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	ミーティングの際は必ず代表者にも参加をして頂き、利用者に対しての思いやりや理念の内容にそったケアの仕方等考えをスタッフ間に伝えている。それ以外でも今年から2ユニット目が開設し、そこでのスタッフともお互いがお互いに介護を提供する際の意見や考え、時には注意などもしコミュニケーションも多く図っている。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ユニット目が今年から開設し、外部講習や地域の病院院長が主催している認知症症例勉強会などがあり参加している。経験の少ないスタッフが多い中、経験豊富なスタッフが技術等の仕方を教えたりしている。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○	運営推進会議で、市町村に同町の同業者との交流会を開く機会を設けてはどうかという話が出ており、来年あたりに試みる返答があり。交流会の機会を利用し今後、上手く繁栄できれば良いと考えている。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	代表者の試みで食事会を開いて頂いたり、している。また、それ以外では代表者が直接スタッフと話す機会を設けスタッフ個人個人の気持ち等に耳を傾けたりして取組んでいる。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員となるべく関わりを深め、個々の状況を把握しようと努力している。また、研修等で参考になる内容については研修の参加を促している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接が可能であれば、本人と直接会い本人の緊張や不安を何気ない会話から話をし受け入れてもらう。それから少しずつ本人が抱えている問題が聴けるように努めている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは利用者の状況・生活歴・相談に至るまでの経緯を聞き、苑に対しての要望や困っている事となるべく聴くようにしている。そして、苑の方針や理念を説明し家族の緊張をほぐし安心して頂けるようによく話をしている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なかなか相談時に必要としている支援を見出す事は難しいと思われるが、双方から十分話を聞き入れ、何が一番困っているのか、どうしたいのか、どうなりたいのかを自然な流れで聴く。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症高齢者は環境の変化に非常に敏感であり良くも悪くもしてしまうので、初めにまず家族から色々と生活歴や性格、仕事の経歴等の情報を得て周囲の利用者、スタッフも環境の一部なので少しずつ馴染んで頂ける様、コミュニケーションを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	我々スタッフにとってはただの職場かもしれないが、利用者にとっては生活の場であり、色んな人生を生きてきた先輩でもある事を忘れずにグループホームの特徴でもある家庭的雰囲気を用いて。時には怒り、楽しみ、喜んだり笑顔の絶えない関係を築けるよう努力している。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症高齢者ケアの一番必要とする者は家族であり、やはり利用者を介護している事には勝てないと言う事である。その為、家族とも良い関係作りに努めており、面会時には利用者の出来事を話したり、問題が起こった際にも困っている事を話したりと家族とも一緒に協力し合って利用者を支えて行けるよう努力をしている。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族・職員が安心して苑での生活が築けていけるよう、随時今の利用者の状況を家族にも理解して頂く事も必要であり、利用者に対して行なっているケアの内容を報告したり家族側からの要望も確認しながら良い関係作りが築けていけるよう努めている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会がっており、それ以外に同じ町内会の人や老人会の人達と一緒に面会に来られたりと馴染みのある人との交流は図られている。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格的に内向的な方も居て、人それぞれ係わり方はあるが、食事・レクリエーション・おやつ・行事では全員一緒に交流が図れるよう支援しており、孤立傾向にならないよう小集団でのレクやコミュニケーションをスタッフが間に入り個別に合った方法で上手く関わりを持つようにしている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	たとえ、サービス契約が切れても、また縁があればいつでも戻ってきて欲しい事を家族に説明しており今後も関係が築けていけるように関係を大切にしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向に対しての返答は殆ど無いが、その時その時の場面で思いや希望を聞きだし利用者を選び・決める事をして頂いている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や今まで経験してきた思い出深い出来事を理解する事は認知症高齢者ケアにとってはとても大切な事であり、その時の出来事で生きている人も居るので尊重しながら把握している。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の中には自覚症状が無く具合が悪くてもどのように悪いのかを説明する事が出来ない人もいるので、常日頃からの個々の生活パターンを良く把握し普段の様子に変わった事が無いかを観察している。また、自己にて本当はどこまで出来るのかを理解し介護の理念でもある自立支援に沿い過剰な介護はしないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや毎日の業務の中で交わされる利用者の情報、また、定期的に来られる家族にも要望や苑生活で出てくるニーズ等を報告し意見を反映させて計画作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週1回のモニタリング、3ヶ月ごとに評価を出し、突発的な状態変化によっては、また新たに生じた問題点等を取り上げ計画書を作成している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、毎日の介護記録には何気ない内容の事でもその中からちょっとした変化が見られ、先々利用者の状態変化の目安ともなったりするもの。ケアプランに大いに利用できる情報源でもある為、記録の重要性をスタッフに十分理解してもらい、記録を記入するよう呼びかけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人に置かれた状況によっては家族と一緒に泊まりたいと要望があった場合に布団・食事の準備等や行事の参加を行っている。また外泊時で自宅までの送迎も行なっている。 (福祉車両)		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	現状、本人の意向や必要性の協力は難しく、併設のケアハウスと協力をしながら地域住民と関わっていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具とは本人の身体状態により話し合いをし取り入れている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	権利擁護など取り入れた事がないのでその時の為に地域包括支援センターと連携をとっていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在のかかりつけで本人が納得しているのかを本人・家族に確認し他の病院での受診を希望している場合は意向に沿い病院受診の援助を提供している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に認知症専門病院があり、医師と上手く関係を築きながら相談やアドバイスを頂きながら、治療の支援を行なっている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		○	地域の個人の病院では顔馴染みもあり、利用者・スタッフとも気軽に話が出来たりするが、総合病院だとそのような関係作りが難しいように思える。総合病院では希薄さを感じる。利用者自身の顔も余り認識しづらい。利用者・スタッフにおいてもである。

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が必要となった場合に、グループホーム側からの要望をソーシャルワーカーと話をし出来る限り早期退院になるよう相談している。		
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	重度化した場合や終末期のケースが現時点ではなく、方針が定まっていないのが現状。しかし、今後はグループホームでも看取り介護が取り入れられているので代表者と十分方向性を話したい。
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	49と同じく、今までにこのようなケースがない為、方針が定まっておらず、代表者ときちんと今後の方針を話して検討したい。
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化がストレスであり、認知症進行が懸念されるので、十分注意を払い、スタッフや家族と良く情報交換・話し合いをしながら検討し極力本人へ悪い影響が出ないよう十分考慮しながら対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	過去の生活歴が大いに影響している利用者もあり、敢えてそれを否定はせず、否定する事によって混乱を招き不穏を助長させてしまう恐れある為、臨機応変に話を合わせ基本は傾聴的コミュニケーションを心掛けている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「何か手伝わせてもらいたい」と希望する利用者が数人おり、その人その人のレベルに応じてあらゆる場面での役割提供を行い活躍の場を提供している。スタッフ本意で決めたりはせず、利用者の意見を聞き確認しながら働きかけるように支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは職員にとっては職場の一つかもしれないが、利用者にとっては生活の場であり、生活の中心は利用者である事をスタッフに認識させている。本人希望を尋ねさりげなくフォローしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時では着る洋服を本人に選んでもらったり、行きつけの美容院があれば希望時には送迎をし支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中には「色々と出来る事があれば手伝わせて欲しい」と言われ、食事の材料切りや豆の殻剥き・スジ取り・洗濯・洗濯干し・味付けや盛り付け・配膳等、個々のレベルに応じた役割提供をスタッフと一緒にこなしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を希望される利用者で自己にて管理が出来る人は敢えて制限はせず。(夕食時に小さいグラスに1杯程度。)配慮しながら飲酒して頂いている。しかし、それ以外で自己にて管理が出来ない人は飲酒後、他者に影響を及ぼす人に関しては行事以外に提供しないようにしており家族にも説明している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、排泄チェック表を作成してチェック表を確認しながら随時誘導を行なっている。失禁・汚染時では本人のプライドを傷つけないよう声掛けに注意し介助を行なっている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏季は毎日入浴、冬季は入浴の際の急変事故が多くなるので1日置きに入浴を提供している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握しながら臨機応変に居室で休息・安眠を夜間の睡眠に影響がないよう考慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を知る事は認知症高齢者ケアにとって重要であり、生活歴以外でも現時点の利用者の持っている能力等も把握しレベルにあった役割の提供や余暇活動等生かしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態によっては家族の希望により預かりで対応しているが利用者の力量によっては自己管理をしている。所持金はそれぞれ違うが管理をして頂いている。買い物への支援は希望時には近くのスーパーに連れて行き買い物の支援をしている。支払いの際は極力見守りにて自分で行なえるよう支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	運動がてら気分転換も含め地藏参りや近くの小学校を散歩する為、屋外活動の支援をしている。買い物援助は限られた利用者になっているのが現状。	○	屋外散歩の活動は利用者の希望もあり行なわれているが、買い物に関しては限られた利用者のみで、それ以外の利用者は身体的に気分的に希望されない方もいる。しかし、今後は余り外出の機会の無い利用者も気分転換に買い物等にも行くことが出来るよう努めていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事とは別に、誕生会では誕生月の利用者何人が食べたいかを尋ね、食べたいものを食べに外出の援助をしている。それ以外で家族と一緒に外出の支援は日中は仕事で都合がつかないこともあり家族との外出援助は難しい部分がある。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から利用者へ電話が定期的にかかってくる、利用者の希望時、状況に応じて家族に電話をかける支援を行なっている。		
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一人の利用者を除き、定期的に良く家族や親戚、同じ老人会だった頃の友人等の馴染みの人達の面会があり、居室で話したり、リビングで他者と一緒に交えて話をして過ごしたりと居心地良く過ごせていると思われる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		○	拘束のないケアを行なっている。ある程度の拘束に関する理解はあると思われるが、必ずしも確実に理解しているとは言いきれない部分があり。また、言葉による抑制が利用者の安全を守る為に気付かない所で起こっている事もあるので勉強会や資料を準備し改めて理解して行く必要あり。
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は施錠する事は絶対にせず、玄関にセンサーを設置しすぐ対応出来るようにしている。施設周辺での活動(花壇の手入れ・ベンチに座っての休息・散歩等)自由に活動が出来るような環境づくりに努めている。		
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	散歩に行きたい事が理由で、一人で屋外散歩をしに外へ出かける目の離せない利用者がいるが、利用者がくつろぐリビングには対面式でいつもスタッフが目の届く範囲で所在確認が出来ている。		
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の有する能力によってはハサミ・果物ナイフも自己にて管理している人もいる。特別持ってきてはいけないものは掲げていない。		
71	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった時のマニュアルを準備。消防訓練も行い周知徹底に努めている。利用者が安心・安全・安楽に苑で生活して頂けるよう利用者の一人ひとりのレベルに合わせ事故の無いよう取り組んでいる。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。事故発生時の際の連絡経路等もミーティングで認識する機会も設けている。応急手当に関しては資料等で把握してもらっているが訓練を定期的には行っていない。	○	外部講習会などを上手く取り入れ定期的に実践訓練を行いたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練で避難訓練・通報訓練を行っている。	○	消防訓練では地域住民の参加も行なっているが訓練当日悪天候により住民の参加が出来ていないのが現状。併設のケアハウスとも上手く協力して地域住民とのかかわりに力を入れてたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	定期的に面会のある家族にはその都度利用者の状況報告を行っており、問題に対しての解決策で起こり得るリスクなども十分考慮し家族に説明をしている。家族と協力しながら利用者が安心して生活が出来るように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	自覚症状の低い認知症高齢者は体調不良時でも自ら訴える事が出来ない方もいるので、常日頃からの状態観察を行い、普段と様子が違う時などはスタッフ間との連絡を密に行ない、状況に応じて病院受診等早急に対応できるよう心掛けている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をコピーしファイル化して随時スタッフが把握できるようにしている。服薬の際は手渡しにて確実に飲めたかどうかの確認をしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防として、水分摂取量を1日1000ccは摂取してもらうよう定時以外でもこまめに水分補給を行い便秘や脱水に注意している。水分以外にも食材等も上手く取り入れ便秘予防に努めている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず口腔清拭の声掛けをし、利用者の状態に応じた誘導・洗浄一部介助にて清潔保持に努めている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量チェックを行っており、栄養管理・水分管理を行っている。肥満傾向にある利用者には家族に説明し主食の量を減らしたりと個別に応じ対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策研修会に参加し、対応の仕方等連絡している。また、感染した際はかかりつけ医や専門医での治療を早急に行い対応している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回(日曜日)に冷蔵庫チェックを行い、賞味期限等の食材が無いかを確認しあれば処分している。また、冷蔵庫内の清掃・消毒を行っている。調理用具は随時塩素系消毒液で消毒をおこなっており、布巾等もこまめに消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一階木造平屋作りの屋根瓦の家屋で、屋内は天窓を用いた吹き抜けの明るく開放感のある造りとなっている。木造のウッドデッキがあり家庭的な雰囲気のある。玄関横には花壇があり利用者が夏にはキュウリやトマトの栽培をしたり、お花の手入れをしたりしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースであるリビングや食事テーブルは天窓の光を取り入れた優しい明るさの暖かさが感じられる雰囲気開放感があり、利用者達も日中は殆どソファに腰掛けテレビ鑑賞等くつろがれている。家具も空間に合わせて家庭的な物を取り入れている。		

グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ自由に行き来でき、ソファでもある程度個々の座る場所が自然と決まっており気の合う利用者同士が交流を図ったりと過ごされている。ソファで自由に横になったりと思い思いに過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居するにあたりグループホームの役割や方針を家族に説明し、使い慣れた食器や家具等の生活用品・道具を持ち込んで頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際は必ず、居室・玄関・居間等の換気を行なうのは基よりそれ以外でも適宜に換気を行なっている。食事作りの内容によっては臭いがこもりがちになるので気をつけながらこまめに状況に応じ換気に努めている。温度調整は職員が行っており、利用者からの意思表示を受けその都度調整している。冷暖房に頼りすぎないよう厚着をする等の工夫		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで手すりが設置されている。浴槽内には滑り止めマットを使用し事故防止に努めている。利用者にも協力して頂き、洗濯干しや食事の盛り付け等の役割提供を行っており利用者の身体機能に合わせた活動を上手く引き出す事が出来ている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の持つ力を最大限に引き出し、失敗してもさりげない介助を提供しながら自信を持って活動して頂ける様、声掛けにも十分配慮しながら工夫し対応している。		
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節によっては日光浴やシャボン玉をしたり、夏は花火をしたりとベランダを活用している。	○	建物周辺は雑然としている為、何か工夫をしたいと考えているがこれといって案がない。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
		○	ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)